

数値目標に対する委員からの意見について

【資料3-2】

基本目標	取り組み	数値目標(既存)	追加項目、意見等	対応案等
1	①	自然環境基礎調査	・調査の対象を広げたらどうか。	・自然環境調査の項目は、現状のまま残し、項目を増やして複数の項目で評価できるように検討します。
	①		・生物多様性が保たれているかどうかの評価が必要だと考える。 ・生物多様性そのものを評価する指標がない。	・国土交通省が実施している河川水辺の国勢調査(5年に1回実施)の結果を活用し、評価を検討します。
2	②	自然環境に配慮したまちづくりができていると思う人の割合(六次総指標)		【削除】 第七次総合計画のアンケートから削除されたため
	②	地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている人の割合(六次総指標)		【削除】 第七次総合計画のアンケートから削除されたため
		多様な生き物が生息している自然環境が身近にあると感じている人の割合(六次総指標)		【削除】 第七次総合計画のアンケートから削除されたため
	②	都市公園の目標水準		
	②	温室効果ガス排出量の抑制(市内全域)	・基準値を見直してほしい。岡山県が2050年目標をゼロにしている。整合をとる必要があるのではないか。この目標で2050年をゼロにできるのか。	・目標値を見直した数値に変更します。
	②	市内で下水道を利用できる人の割合		
		合流式下水道を改善した面積の割合		【削除】 改善した面積の割合が、100%になったため
	⑤	自然環境に配慮した工法により整備された、河川やため池、護岸等の工事件数(環境基本計画指標)	・件数が多いのがいいとは限らないので、全体の工事に対しての配慮された工事の割合がいいのではないかと。	・対象工事の範囲(全体数の把握)も含め、検討します。
	⑤	自然環境に配慮した工法により整備された、河川やため池、護岸等の工事件数(環境基本計画指標)	・効果があったかどうかの評価が必要ではないか。	・効果の確認については、予算措置が必要になるので、今後の検討課題とさせていただきたい。
	⑤		・希少な生き物の種数など市民にとって分かりやすい項目が必要ではないか。	・岡山県レッドデータブックに掲載されている種のうち、倉敷市内で確認できた種数を項目として挙げます。
⑥	特定外来生物の防除(ヌートリア)	・捕獲数ではどうしても実態が分かりにくいので、可能であれば単位努力量当たりの個体数(OPUE)を算出できないか。(例えば罠設置数あたりの捕獲数の経年変化など。)	・罠設置数については、把握ができないとのこと。(市内で保有されている罠数(約40基)については把握している。) ・農作物のヌートリアを含む鳥獣被害面積、被害額に変更し、状況が把握できるようにします。	

基本目標	取り組み	数値目標(既存)	追加項目、意見等	対応案等
	⑥	特定外来生物の防除	・オオキンケイギクの駆除などは実施していないか。あるいはスクミリンゴガイなど、特定外来生物ではないが生態系への影響が大きい種の防除が実施されていれば、追加してはどうか。	・オオキンケイギクやスクミリンゴガイなど他の外来生物については、防除等を実施していません。
	⑥		・ヒアリなどの外来種の評価項目を増やしてはどうか。	・ヒアリ等の特定外来種の確認件数は把握が可能です。(環境省や岡山県と情報の共有が可能)
	⑥		・外来種対策は市民とくに若い世代の教育による意識付けが重要と思います。ヌートリアよりも簡単に手出しができるスクミリンゴガイやオオキンケイギクの駆除など市民参加できる取り組み、岡山理大との連携でミシシippアカミミガメの生態研究などを通じて社会にPRできればよいと思います。	・数値目標としては示すことができないため、実施事業計画の中で実施可能かどうかを今後、検討します。
3	①	「環境保全型農業直接支援対策」取組面積		・担当課から数値目標は、団体数に変更したいとのこと。 ・取組面積と耕地面積については、別に示し、確認できるようにします。
	①	市民農園区画数		
	①	新規就農者数	・新規就農者のみでなく、全就農者で示してはどうか。	・全就農者と新規就農者の両方で評価できるか検討します。
	①	有機JAS認定農業者数(団体)	・有機JAS認定農業者数(団体)を有機JAS認定農業就農者数とすることにより、実態が詳細に把握できると思います。	・農業の経営形態には、個人・法人等様々な形態があり、就農者数での設定は、把握が困難である。これまでと同様に団体数での把握とさせていただきたい。
	①	おかやま有機無農薬農産物生産農業者数(団体)	・おかやま有機無農薬農産物生産農業者数(団体)を農業就農者数とすることにより、実態が詳細に把握できる。就農者は増加しているのではないか。	・農業の経営形態には、個人・法人等様々な形態があり、就農者数での設定は、把握が困難である。これまでと同様に団体数での把握とさせていただきたい。
	②	地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている企業の割合(六次総指標)		
4	③	自然の中で遊ぶことが楽しいと思っている子どもの割合(六次総指標)		
	④	自然にふれる活動に参加している子どもの数(環境基本計画指標)		
	④		・アンケート結果だけでなく、高校生など個別の活動を評価に加えられないか。	・数値目標に含めることは難しいが、実施事業計画で対応が可能かどうか検討する。

基本 目標	取り 組み	数値目標(既存)	追加項目、意見等	対応案等
		自然がかげがえの無い大切なものだと感じている子どもの割合(環境基本計画指標)		【削除】 第七次総合計画のアンケートから削除されたため
	⑥	親子・家族で日常的に自然にふれあえる場があると思う人の割合(六次総指標)		
		身近な自然を守る活動を行っている人の割合(環境基本計画指標)		【削除】 第七次総合計画のアンケートから削除されたため
その他			・自然観察会の最初に、生物多様性啓発ビデオを放映し、その放映回数を指標にしたらどうか。	・実施事業計画の中で、実施できるかを関連部署と検討します。
その他			・自然史博物館が保管している標本数などを指標にしてはどうか。	・項目を追加します。
その他			・航空写真から住宅、森山、河川敷などの面積を方眼紙等で算出してモニターし、面積が減少していないことを普通種の生息域が保たれているかの確認に使用する。	・森林等の面積は、1年での変化が小さいと考えられるため、短期的目標見直し時期の基礎データとして使用したいと考えます。 ・倉敷市の統計資料で確認します。
その他			・市内5大学の取り組みを情報収集して活用したらどうか。	・実施事業計画の中で、実施状況等を把握できるか検討します。
その他			・生物多様性にSDGsの考えは反映しないのか。	・該当する内容を反映させます。
その他			・数値化する目標を立てるのは重要であるが、そのみで評価するのは難しいのではないか。	・毎年の進捗状況は、数値目標で確認します。目標年次(今回は2030年)での評価は、実施事業や統計データを含め総合的に評価します。